

学校給食

星名久美子

子どもたち、一人一人の成長を願う学校給食部

2005年6月に制定された食育基本

法前文の一部分です【子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも「食」が重要である。今、改めて、食育を、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができ、健全な食生活を推進することが求められる人間を育てる食育を推進することが求められている。(略) 子どもたちに対する食育は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となるものである】ここに示されているように「食」は知・徳・体の土台となり、生きる力の礎となるものです。

○給食時間での学び

4校時終了のチャイムと同時に机を移動させ給食の班づくりの準備に取り掛かる光景を今の教室で見かける事がなくなりました。新型コロナウイルス感染症予防のため全員前向き、黙食。お代わりも配慮が必要。コロナ禍前のグループ給食の時は、苦手な食材を頑張って食べる友だちを応援し、その苦手を克服した友だちの喜びをクラス全員で味わったり、苦手を克服した児童に笑顔が増えたり、授業で積極的に手を挙げるようになったりもしました。これらは、友だちと楽しく過ごした給食時間の成果です。栄養教諭等の教室訪問では子どもたちの疑問や質問に直接答えたり生きた教材である当日の給食を活用して食品・料理の知識を深めさせたり、食に関する知識だけでなく暮らし全体に関しても興味・関心を持たせることが出来ました。

○コロナ禍における給食時間

定例会の時「黙食による給食時間では味覚に広がりを持たない児童も出てくるのではないかと心配。グループ給食では子どもたちが食べた感想を口々にするのでも『この料理おいしくない』と感じても『おいしい』という友だちの声を聞くことで、味の好みに違いがある事なども理解する事ができたのに」という不安視する意見もできました。子どもたちは食べた感想を語り合うことで美味しさなどを共有して味覚の幅を広げる事が出来ます。また、表現力も豊かになり、意識して食べる事で感覚も鍛えられていきます。食に関する指導が制限されている今、現場では黙食という条件を有効活用し、ビデオ放送など様々な手法で食育指導に取り組んでいます。

冒頭にも触れたように生きる力を付けるため「食」が重要です。今年度のテーマは「子どもの食事観」です。子どもたち一人一人に寄り添える給食論議が語り合える通常の定例会が早く開催できる事を願っています。

(共同研究者)